

みしま

作り続け
積み重ねてきたことが
大きな喜びとなって
今、満ちあふれています

第23回ふるさと会津工人
まつりは6月13日・14日、
生活工芸館前で開催され、
約2万5千人の来場者でに
ぎわいました。写真は奥会
津編み組細工（ヒロロ細工）
の第一人者で伝統工芸士の
久保田節子さん（間方）。最
高峰の技の実演に、常に人
の輪ができていました。

MISHIMA GRAPH
工人の聖地
18・19 ページ

2009

7

広報みしま No. 196

特集 この町に住む

三島町の人口は、間もなく2000人を割ります
若者の流出は止まりません
背景には「職場が少ない」という大きな悩みがあります

しかし、三島を選んで移り住んだ人たちもいます
そして、この町を愛し、暮らしている人たちがいます

今、あらためて考えてみましょう
この町に住むということ



でんばら虫もおいくらよいよい 子どもたちの声がこだまする、虫送りの夜

年中行事「虫送り」は6月13日、西方地区と名人地区で行われました。この行事は、農作物に害のある虫を追い払うために行われるものです。西方地区では、子どもたちがろうそくをともした提灯（ちようちん）を持って行列をつくり、「でんばら虫もおいくらよいよい。なに虫もおいくらよいよい。よろずの虫もおいくらよいよい」と掛け声を上げながら、集落内を歩きました。地区の中学生が中心となつて、代々受け継がれてきた「虫送り」。子どもが少なくなった現在では、他の地区の子どもたちも加わり、多くの参加者でにぎわいを見せています。

1 太鼓を載せ、雑木で覆った大八車が行列の最後尾に行く
2 竹の枝に手作りの提灯（ちようちん）を提げ、行列となって集落内を歩く子どもたち
3 夕闇に揺れる提灯の明かり



三島の年中行事

1月1日～3日
若水汲み

1月14日
鳥追い

1月15日
初田植え

1月15日
松もやし

旧暦1月24日
愛宕様の火

初午の日
初午

6月上旬・7月上旬
虫送り

1月2日
若木迎え

1月14日～15日
だんごさし

1月15日
サイノカミ

1月24日
愛宕様参り

2月3日
豆まき

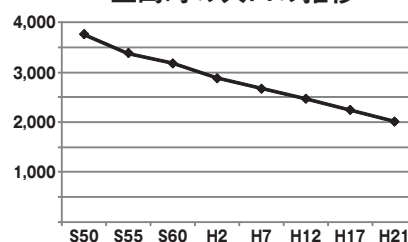
3月2日～4日
三節句とひな流し

旧暦10月10日
虫供養



国の重要無形民俗文化財
「三島のサイノカミ」

三島町の人口の推移



※福島県現住人口調査による三島町の人口は、6月1日現在2,015人。0～14歳の年少人口率は8.2%、65歳以上の高齢化率は46.9%で、人口減少と少子高齢化が著しく進んでいます。今後もこの傾向が続くと予測されます。

※福島県現住人口調査

平成17年10月の国勢調査の結果（2,250人）から、毎月の出生数、死亡数、転入数、転出数および外国人登録者数を加減し、実際に住んでいる人口を推計しています。なお、住民登録をしている人口（住民基本台帳による数値）は、6月1日現在2,107人です。

三島町の人口

2,015人

これが現実 止まらない人口減少

年少人口率 8.2%
高齢化率 46.9%



やぎ・しんすけ
八木周作さん
東京都出身

昨年7月に移住（宮下）
この町だったらできる 真剣になれる
夢を持てる 追いかけて暮らせる

東京は何でもあるし人も多いですが、人とのかわりが少なく、空虚な気持ちになることがありました。三島は2,000人の小さな町ですが、逆にかかわりを持つ人が多く、協力してくれる人もたくさんいます。やるべきことが次から次へと出てきます。また、主体的に「何かをやりたい」と思っている人がとても多いと感じています。でも、なかなか行動できない。町の人たちと一緒に、思いをかたちにするために行動できる仕組みをつくりたいと思っています。この目標を3年で実現したいです。東京ではできないことが、この町ならきっとできます。



さと・みちこ
佐藤美智子さん
秋田県出身

移住して3年目（宮下）
すてきな環境と心優しい人たちに
囲まれ、私も猫のチャメも幸せです

四季折々の風景が本当に美しく、朝早く散歩しながら写真撮影を楽しんでいます。特に只見川の川霧がお気に入りです。三島に移住したのも、写真を通じた縁がきっかけです。田舎でゆっくり過ごしたいと思っていたとき、宮下の写真クラブの皆さんと知り合い、お世話していただきました。生活に不便もないし、毎日温泉に入れるし、冬はものづくりも楽しめる。本当にぜいたくですね。隣近所の方々の顔が見えるし、皆さんとても優しく、私もチャメも満たされています。これからも、ここで楽しく暮らしていければ、それだけで幸せです。



くつわた・くらみつ
轡田倉満さん
福島市出身

移住して3年目（宮下）
人と人とのつながりが強いことが
私には居心地がいいです

子どものころ、父の転勤で県内あちこちに移り住みましたが、三島は人と人とのつながりが強いと感じています。近所から野菜をいただけることもあれば、いろいろ協力し合わなければならないことも。そういう付き合いが苦手な人は、住みにくいかもしれません。子どもにかかわる仕事が長かったので、三島でも子どもたちのことが気になります。田舎も都会も、子どもが抱える問題は同じです。三島では一人一人に目が届きます。スポ少や文化財の事業などにかかわりながら、三島だからできる豊かな教育の場づくりのお手伝いができればと思っています。

移住者の
思いとは

三島を選んだ
その理由

人口減少が続く三島町。しかし、この山村を選び、移り住んだ人たちもいます。本当にうれしいことです。住居のことや仕事のことなど、さまざまなハードルがある中、どのような思いで三島に住むことを決めたのでしょうか。

三島町への移住者数

移住年	人数
1989年	1
1993年	5
1994年	1
1998年	1
1999年	1
2002年	2
2006年	3
2007年	1
2008年	2
2009年	2

※三島町と他地域を行ったり来たりしながら生活する「二地域居住」を含む。

移住して7年目（大谷）
地に足のついた暮らし
この環境が本当に好き

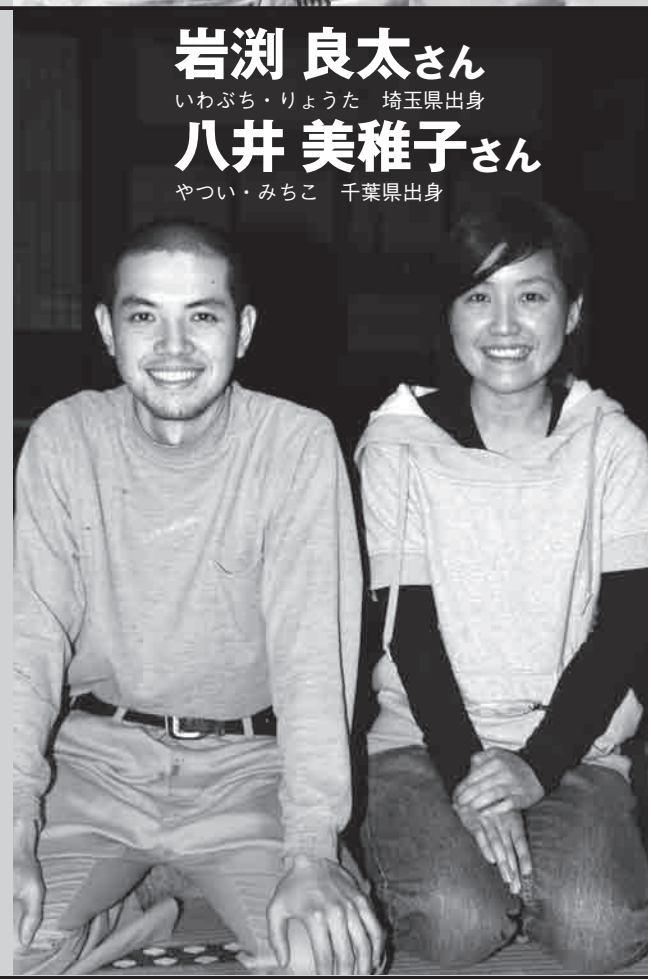
仕事の縁で三島町を知り、その暮らしや自然環境にあこがれていました。町の人たちと知り合い、訪れるたびに「おかえり」と言ってもらえることが本当にうれしかったです。そのような出会いをきっかけに、移住を決心しました。2年前からは現在の古民家に住むことができ、お菓子作りと美坂高原「空色カフェ」の仕事をする毎日です。地元の新鮮な野菜などをできるだけ使っています。自分の畑も少しだけやっています。工人まつりにも毎年出店し、お客さまとの交流が楽しみです。小さい町だから、行政も身近に感じられます。温かい人たち、おいしい食べ物、地に足のついた暮らし…。三島の良さを、もっとたくさんの人に伝える仕事ができればと思っています。

今年4月に移住（桑原）
風景が心に残り、移住を決意
何もかもが新しい田舎暮らし

以前から田舎暮らしがしたいと思っていました。1年前、川井地区を通ったとき、集落の風景が心に残りました。それがきっかけで三島町で住まいを探し、古民家を借りることができました。近所の皆さんが何でも手伝ってくれるので大変感謝しています。まずは生活に慣れること。そして、少しずつできることをやっていきたいと思っています。（岩淵さん）
三島での暮らしは、すべてが新しいことばかり。都会とは別世界です。近所の皆さんに教えてもらいながら、畑仕事をしたり、山菜を採ったり。時間が過ぎるのも忘れるぐらい楽しいです。この暮らしを、たくさんの人に知ってほしいです。同年代の人がもっと来てくれればうれしいです。（八井さん）



さいとう・ただし 長崎県出身
齋藤 聡さん
さいとう・まゆみ いわき市出身
齋藤 真弓さん



いわぶち・りょうた 埼玉県出身
岩淵 良太さん
やつい・みちこ 千葉県出身
八井 美稚子さん

Interview
この町で暮らしてきた
住民の思い



左から、政人さん、海人くん（中2）、里奈さん（高2）、綾乃さん（小5）、美由紀さん

名入地区

半澤 政人さん
美由紀さん
里奈さん
海人くん
綾乃さん

子どもたちと一緒に歩んできた感動の日々
美しい風景、温かい人たち、子育ての環境
ここには生きる術が全部あります

16年前、郡山市から移住した半澤さん一家。画家で美術講師の政人さんは「自然の中で創作活動がしたくて、住める場所を探した」と当時を振り返ります。「名入の空き家を紹介され、玄関に入って居間の窓を開けたとき、田畑と山々の風景が夢で見た風景と同じだったんです。冬が目前でしたが、移住を即決しました」

町内に勤務する妻の美由紀さんも、三島で始まった新しい生活を、きのうのこのように思い出します。

「引越してすぐに近所でお葬式があり、何も分からないまま手伝いにいきました。初めてで戸惑いましたが、みんなで作り上げるお葬式に感動したんです。また、それがきっかけで顔を覚えてもらえたり、地域に受け入れられました。その夜見た月明かりの景色は今でも忘れません。ここに来てよかったと思いました」

移住したとき、長女の里奈さんは1歳。ベビーカーに乗せてよく散歩したそうです。

「散歩の途中、いつもたくさんの野菜をいただき、ベビーカーがいっぱいになるんです。なんて温かい人たちなんだろうと思いました。毎日が感動でした」

子どものころから画家を志していた政人さん。美術教師になり、仕事に追われるうちに「これが本当に私のやるべきことだろうか。もっと自然の中で絵を描きたい」という思いが次第に強くなったといいます。そして子どものためにも、自然が身近にある場所を求めました。

「三島に来て、同世代の親たちの一生懸命な姿に驚きました。子どもたちが育つ環境をより良くするために、自然に協力し合うことを教えられました。そしてもう一つは、いきなり畑を耕し始めた妻にびっくりしました。この人すごいなって……」

田舎だからできることを積極的に実践してきた美由紀さん。手すき和紙の作り手でもあり、材料となる楮も自分で栽培しています。

「結婚する前は、東京にどっぴりつかった時期もありました。だからこそ、今の暮らしの良さが分かります。子どもたちと一緒に畑を耕したり野山を歩いたり、冬はスキーをしたり……。自然の中にいると、たくさんの発見があります。子どもたちは、都会に出て、ここで育ち、自然の中で感じたことを忘れないでほしいと願っています」



前列左から、あかねさん(中1)、みちるさん(小1)、拓くん(小5)、哲也さん
後列左から、一雄さん、フジさん、幸子さん

宮下地区

中丸 哲也さん 一雄さん
幸子さん フジさん
あかねさん
拓くん
みちるさん

家族一緒にご飯を食べれることが何より幸せ
子どもたちには、町を出たとしても
ふるさとの良さが分かる大人に育ってほしい

中丸さんのお宅は7人家族。あかねさん(中1)、拓くん(小5)、みちるさん(小1)の3人の子どもたちは育ち盛りです。その様子を祖母・フジさんは、うれしそうに目を細めます。

「お隣さんも子どもが3人いるから、全部で6人で毎日にごやかです。行ったり来たりして、どっちの子だか分からないくらい。毎朝、子どもたちの『おはよう』の大きな声を聞くことが一番の楽しみ。そして、家族一緒にご飯を食べれることが何より幸せです」

一家を支える父・哲也さんと母・幸子さんは、それぞれ金山町と会津坂下町に通勤しています。

「仕事に出ている母親が多いので、時間外保育などが充実すれば助かる人も多いのではないのでしょうか。また、おかずだけでも学校給食があればありがたいのですが……」

三島町では学校給食を実施していませんが、アンケートなどでも要望は多く寄せられています。

「歩いて行けるところに県立病院があるので安心はできますが、小児科がないから困ったこともあります。中学生までの医療費無料は大変助かっています。インフルエンザ予防接種に

対する助成があるとうれしいですね」

介護施設に勤務する哲也さんは、夜勤もある忙しい毎日。

「子どもが小さいのは心配もありますが、小さい学校だから一人一人の顔が見えるのはいいところ。いい先生ばかりだし、PTAの活動もやりやすいと感じています」

子どものころは田舎が嫌いだったという哲也さん。気持ちが変わったのは、消防団に入ったころからだそうです。

「地元の仲間たちと楽しく過ごすうちに、この町がいいなあと思うようになりました。職場が少ないですし、子どもにはここに残れとは言えませんが、どこに行っても、ふるさとの良さが分かる大人に育ってほしいです」

息子の拓くんの夢は「レーサーか自動車を設計する人になること」。かわいい孫の姿に笑みを浮かべる祖父・一雄さんは、安全パトロール隊として子どもたちの登下校に毎日付き添っています。

「人口は減っていますが、田舎暮らしをしたい人はたくさんいるのではないだろうか。三島に住みたいという人が、一人でも多く移住できればいいですね」

これからも この町で

人口減少が止まらない。職場がない。若者は町を出ていく。高齢化がどんどん進む。子どもはどんどん少なくなる…。

一方で、三島に移住した人たちがいる。広い世界の中から、この町を選んだ人たちがいる…。

悲観的になる前に、なぜ三島に住むのか、考えてみる必要があるのではないだろうか。三島の良さは何なのか、探してみることが大切ではないだろうか。

役場若手職員が町づくりについて考える組織「CH^チANG^{エン}E^ジ」では、5月下旬から6月上旬にかけて、若者定住と子育てについてのアンケートを実施しました。若い世代、子育て中の世代に目を向け、今後の町の施策や住民活動などの手掛かりとしたいという思いから行ったものです。ご協力くださった皆さん、本当にありがとうございます。このア

ンケートの結果を資料とし、今後の具体的な取り組みについて、住民参加による話し合いの場を設けることを検討しています。

三島に移り住んだ方々は、気持ち が本心に前向きです。気候も慣習も 違う土地に来て、つらいことや悲しいことも、きつと多いはずです。しかし、そんな様子はまったく感じさせません。快く取材に応じてくださり、本当にありがとうございました。

「三島町に住むということの意味を考えるきっかけとなれば…」という思いで取り組んだ今回の特集。取材を通して、「私はこの町が好きで、この町を選んで住んでいる」と自信を持って言えることが大切だと感じました。本音を語り合い、協力し合い、この山村のさまざまな課題を乗り越えていきましょう。

これからも、この町で――。
特集「この町に住む」終わり

写真 / 新宮下橋から望む宮下地区と三坂山

若者定住・子育て支援アンケート

このアンケートは5月下旬から6月上旬にかけて配布・回収されました。「定住環境として重要だと思うこと」の1位は就業、続いて周辺環境、子育て、住まい、「子育ての環境として重要だと思うこと」の1位は教育、続いて保育、医療、助成制度という結果でした。	《対象者》 ■ 18歳～39歳の方々 ■ 0歳～高校生の子がいる保護者の方々 合計 435人 回収 281人 (64.6%)
---	---

◎定住環境として重要だと思うこと

(選択肢から1位～3位を選び、1位3点、2位2点、3位1点として集計)



◎子育ての環境として重要だと思うこと

(選択肢から1位～3位を選び、1位3点、2位2点、3位1点として集計)



集計考察

▷定住するには、就業の場が多いことが理想であり、アンケートからも多くの人が願っていることが分かります▷買い物、交通、公共料金、情報通信などの周辺環境は、「定住環境として重要だと思うこと」においては2位であるのに対し、「子育ての環境として重要だと思うこと」では最下位であるところに、考え方の違いが見られます▷このアンケートの結果を踏まえ、定住や子育てをテーマとした住民参加による話し合いの場をつくり、具体的な町の施策や住民活動などにつなげたいと考えています。



みしまの出来事

身近な情報をお寄せください。 ☎(48)5515



総合検診が6月2日から7日にかけて町民センターで行われました。検診結果から自分の健康状態を見直し、改善につなげましょう。

「百万遍」や
昔の石遊びなど
思い出を語り合う



子どものころの記憶を思い起こす参加者

名入地区の暮らしと文化を話し合う会

「名入地区の暮らしと文化を話し合う会」は6月4日、名入集会所で行われました。伝統行事や昔の暮らしぶりなど、地区の文化を掘り起こすことが目的です。地区住民の皆さん15人と役場職員7人が参加。昔、お寺で行われていた年中行事「百万遍」や、石でお手玉をして遊んだことなど、ほほ笑ましい思い出を語り合いました。町では、今後もこのような集会を実施し、町づくりにつなげたいと考えています。



役場職員と名入地区住民の皆さんで話し合った

みんなでつくろう
犯罪や非行のない
明るい社会を



町民センターで行われたしおり作り

社会を明るくする運動呼びかけるしおり作り

保護司会、更生保護女性会の会などの皆さんは6月10日、「社会を明るくする運動」を呼びかけるためのしおりを作りました。7月はこの運動の強調月間。しおりは期間中さまざまな場所で配られます。しおりには押し花がが運動標語コンクールの入選作品が書かれています。「朝一番笑顔でおはよう明るい家庭」「やめなよと言える勇気がいじめをなくす」このような気持ちを忘れずに、明るい社会をつくりましょう。



運動標語を書き、優しい草花を張り付けたしおり

田植えから
稲刈りまで体験し
秋には収穫祭



素足で水田に入り、田植えをする児童たち

三島小5年生の「田んぼの学校」

三島小5年生15人が稲作を学ぶ「田んぼの学校」は6月2日、宮下ふれあい公園「びおたん」周辺の水田で始まりました。会津若松市の農家、長尾好章さんが講師を務め、稲について講話しました。その後、児童たちは素足で水田に入り、田植えを体験しました。同公園を管理する「びおたんクラブ」の皆さんも指導に加わりました。今後は、草取り、田の生き物調査、稲刈りを行い、秋には収穫祭を催す予定です。



初夏の日差しが照り付ける中で行われた田植え

大きくなったら
ぼくも消防士に
なれるかな



消防服を着る子どもたち

三島保育所の消防署見学

三島保育所の子どもたちは6月5日、会津坂下消防署三島出張所を見学しました。小林俊之消防司令補、尾崎光雄消防士長、歌川定儀消防士長が消防署の仕事について説明しながら、庁舎内を案内しました。その後、子どもたちは消防車や救急車に乗せてもらったり、消防服を一人一人着せてもらったりしました。最後に、消防車からの放水を体験し、地域を守る消防士の仕事を実感していました。



放水を体験する子どもたち

最優秀選手は
二瓶健嗣さん
五十嵐淳さん



1部で優勝したワラビーズの皆さん

ビーチバレー大会17チームが参加

ビーチバレーボール大会は6月22日・23日の2日間、三島中学校体育館で開催されました。年齢制限のある1部に10チーム、制限なしの2部に7チームが出場しました。結果は以下のとおりです。
【1部】①ワラビーズ②山中Bチーム③山中Aチーム、中2ドラゴンズ
最優秀選手・二瓶健嗣さん(ワラビーズ)
【2部】①Sixdiue②西方ビーチクラブ③荒屋敷、NVCファイヤファイターズ
最優秀選手・五十嵐淳さん(Sixdiue)



2部で優勝したSixdiueの皆さん

笹巻き、こづゆ
食文化を伝える
おばあちゃんの味



笹巻きを作る児童たち

先生はおばあちゃん三島小6年生が料理

子どもたちに地域で受け継がれてきた家庭料理の味を伝える「おばあちゃんの味」は6月26日、町民センターで行われました。老人クラブ女性部の皆さんの指導により、三島小6年生が笹巻きやこづゆなどを作りました。お昼には、出来上がった料理を参加者全員で食べました。この行事は昭和60年に始まり、今年で25年目。世代を超えて交流しながら地域の食文化を伝え、子どもの食生活を見直さきっかけとしています。



出来上がったおばあちゃんの家料理

大阪の小学生が
三島を訪れ
初めての縄ない



縄ないを教える角田チヨ子さん(写真中央・大谷)

大阪・はつしば学園小ヒロロコースター作り

大阪・はつしば学園小学校の6年生112人が6月8日、修学旅行で三島を訪れ、ものづくりを体験しました。ヒロロ(ミヤマカンスゲ)で縄をない、桐板に渦巻き状に張り付ける「ヒロロコースター」作りに挑戦。9人の工人の皆さんと生活工芸館職員が指導しました。児童たちは初めての縄ないに四苦八苦しながらも、一つずつコースターを完成させました。この経験を忘れずに、またいつか奥会津に来てほしいと願います。



縄ないを教える小柴芳夫さん(写真右・西方)

本 町民センター図書コーナー ゆめぽけっと

●利用時間 月～土 9:00～21:00
日・祝 9:00～17:00
●お休み 年末年始
●図 教育委員会 ☎(48)5599

新刊



一般

1Q84 Book1・2

村上春樹・著
新潮社

村上春樹の最新書き下ろし長編小説。大人気でなかなか手に入らない一冊です。「こうであったかもしれない」過去が、その暗い鏡に浮かび上がらせるのは、「そうではなかったかもしれない」現在の姿だ…。

新刊



一般

日本の山菜

高橋秀男・監修
学習研究社

食べられる野草、木の実など150種以上を紹介。採取時期や繁殖分布、食べ方などが詳しく解説されています。また、間違えやすい有毒植物も紹介されています。

小学生・中学生向け

世界のこわい話

山主敏子・編著
偕成社
(福島県立図書館から借用)



世界各地の怖い話、信じられない不思議な話がたくさん詰まっている民話と伝説の本です。この本を読めば、夏も涼しく過ごせるかもしれません。

各種月刊誌が見れます

下記の月刊誌を定期購読します。「ゆめぽけっと」でゆっくりとご覧ください。(貸し出しはできません)

Number

ナンバー (スポーツ雑誌)
文藝春秋



Number

non-no

ノンノ (ファッション雑誌)
集英社

National Geographic

ナショナル・ジオグラフィック (自然科学雑誌)
National Geographic 社

こんにちは、若松三島会です

春の行事「史跡探訪」
身近な歴史を学ぶ

若松三島会(会長・栗城嘉昭氏)では、5月23日、恒例の春の行事として「史跡探訪」を行いました。会員など23人が参加し、土津神社(猪苗代町)、栄川酒造磐梯工場、慧日寺金堂などを巡り、福島県立博物館の特集展「直江兼続と会津の戦国武将」を見学しました。史跡巡りでは、歴史に詳しい馬場庄三さん(大登)が解説し、身近な歴史を学びました。

秋には毎年好評の「三島にこだわった、そば会」を会津若松市で行う予定です。会員以外の参加も大歓迎ですので、下記までご連絡ください。

● 役場 総務課 企画財政係 ☎(48)5515



春の行事「史跡探訪」に参加した皆さん(猪苗代町・土津神社で撮影)



表彰状を手にする長谷川哲央さん(中央・川井班)、金子喬団長(右)、長谷川誠副団長(左)

長谷川哲央さん(消防団川井班) 優良青年消防団員章

長谷川哲央さんが、福島県消防表彰の優良青年消防団員章を受章しました。これは、長年にわたり消防団活動に従事し、他の団員の模範となる活躍をしてきた青年団員に与えられるものです。長谷川さんは、5月29日に喜多方プラザで行われた第62回福島県消防大会の席上において、県内34人の受章者の代表として佐藤雄平福島県知事から表彰されました。

●農業者年金受給権者の皆さまへ●

農業者年金巡回相談会

農業者年金巡回相談会を下記のとおり開催します。「農業者年金をもらうための手続き」や「もらえる年金額」など、分からないことや困ったことについて、専門相談員がお答えしますのでお気軽にご相談ください。

◎日時 7月27日(月)13:00～
◎場所 JA 会津みどり本店 2階会議室
会津坂下町字東南町裏甲 3985-1
☎0242(83)2719

◎内容 農業者年金の受給方法などについて、40分ほど説明した後、個別相談を行います。

※電話での相談も常時受け付けています。

【相談先】

福島県農業会議(福島市中町8-2)

☎024(524)1201 相談員 高橋善雄・八島宗雄

福島県 JA 中央会(福島市飯坂町平野字三枚長1-1)

☎024(554)3037 相談員 池田利寿

● 三島町農業委員会 ☎(48)5556



表彰状を手にする菅家政義商工会長(中央)、佐久間源一郎商工会副会長(左)、栗城佐商工会副会長(右)

三島町商工会 全国商工会連合会から表彰 商品券発行事業が評価される

三島町商工会は、定額給付金と連動した商品券発行事業の積極的な取り組みが認められ、全国商工会連合会から優良商工会として表彰されました。三島町商工会は町の補助を受けて、今年4月に町内の小売店、飲食店など各種事業所で使用できる商品券「三島町地域振興券」を販売。1,000円券13枚(13,000円分)を10,000円とし、町内の経済活動促進を図りました。



表彰状を手にする栗城卓夫さん

栗城卓夫さん(西方) 全国市町村教育委員会連合会から表彰 町教育委員を4期16年務める

栗城卓夫さんが、全国市町村教育委員会連合会から表彰されました。栗城さんは町教育委員を4期16年務め、昨年9月に退任するまで、町教育行政、小中学校教育などの発展に貢献してきました。

これからの行事予定 town schedule

7月11日(土)
年中行事「虫送り」夕刻 (大石田)

7月12日(日)
「てわっさの里みやした」定期公開日 (宮下)

第62回県民スポーツ両沼大会 8:30～(会津坂下町)

7月19日(日)・20日(祝)
三島学フォーラム～むらと人の物語を訪ね歩く～
19日 パネルディスカッションなど
13:30～ (町民センター)
20日 ウォーキング (地区を訪ね歩く 3 コース)
9:00～ (大石田・早戸・滝谷)
☎ 教育委員会 ☎ (48) 5599

7月26日(日)
エヘルヘイン少女合唱団公演
16:30～ (交流センター山びこ)

7月30日(木)
ボラボラたいけん隊 (昭和村)

8月6日(木)
民生児童委員協議会定例会 13:30～ (福寿草)

社会福祉協議会
生きがいデイサービス「サロン事業」
滝谷和楽塾
7月16日(木) 10:00～ 滝谷集会所
高清水・小山いきいきサロン
7月17日(金) 遠足 (白河市)

もの申す如く天突く松の芯
匠の技に見とれ酔いおる夏祭り
宮下 志 田 タツノ
植田風逆さ磐梯伸び縮み
息切らし登る土湯路へび苺
西方小平佳子

歳時記 萌の会

みんなで健康づくり《保健事業の予定》
☎ 役場 町民課 保健福祉係 ☎ (48) 5565

ヘルスアップえいよう教室
7月15日(水) 13:30～ 町民センター

ＹＹサークル
7月16日(木) 10:00～ 金山町・ゆうゆう館
8月 6日(木) 10:00～ 町民センター

後期高齢者医療被保険者証更新手続き
7月22日(水) 各地区集会所
※詳しくは7月3日発行のお知らせ版をご覧ください。

3歳児健診
7月22日(水) 13:00～ 柳津町・銀山荘

ヘルスアップうんどう教室
7月29日(水) 13:30～ 町民センター



子の成長 願う心とチャイルドシート
夏の交通事故防止県民総ぐるみ運動
7月16日～7月25日

《運動の重点》
①すべての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
②無謀運転・過労運転の追放
③自転車の安全利用の推進
三島町交通対策協議会
交通安全協会三島分会
三島町交通安全母の会

ご寄附ありがとうございました

町社会福祉協議会へ ご遺志によるもの

秦 栄 吾 様 (大石田)
海老名 一 子 様 (松 原)
酒 井 文 義 様 (宮 下)

7月の納税

●固定資産税 第2期

※納期限は7月31日です。
忘れずに納めましょう。

☎ 役場 町民課 町民生活係
☎ (48) 5555

会津坂下警察署からのお知らせ

三島町では5月中、犯罪は発生しませんでした。宮城県内において、警察官を名乗る男が「あなたの通帳が使われています。銀行の者が行きます」などと電話をした後、銀行協会と名乗る男が自宅を訪問し、暗証番号を聞き出し、キャッシュカードをだまし取ろうとする「訪問型オレオレ詐欺」が発生しています。福島県内でも同様の事件が今年3月から4月にかけて発生しており、今後も注意が必要です。

●不審者の訪問対策
通帳やカードは預けない
すぐに警察に通報

●不審電話対策
口座番号や暗証番号を教えない
相手をよく確認する
すぐに警察に通報

街頭犯罪等発生状況(1月～5月)

区 分	管 内	三島町
空き巣ねらい	1	
忍 込 み	2	
事務所荒し	1	
出 店 荒 し	4	
自 動 車 盗	2	
オートバイ盗		
自 転 車 盗	4	
自販機ねらい	2	
車 上 ね ら い	1	
強制わいせつ		
街 頭 犯 罪 計	17	0
全 刑 法 犯	46	0

※全刑法犯には、街頭犯罪以外(器物損壊・暴行・傷害・万引き・詐欺など)の犯罪発生件数が含まれます。

消防職員を募集します

会津若松地方広域市町村圏整備組合

来年度採用予定の消防職員・消防職員(救急救命士)を募集します。

□採用職種・採用予定人員

消防職員 15人程度

消防職員(救急救命士)若干名

□職務内容 消防署等において、予防、予防、救急等の業務に従事します。男女とも原則として深夜業を含む交代制勤務です。(6カ月間の消防学校研修後、各所属に配属されます)

□受験資格 ①高等学校卒業程度の学力を有し、昭和57年4月2日から平成4年4月1日までに生まれた者②身体強健な者③救急救命士については、昭和57年4月2日以降に生まれた者で、救急救命士法による救急救命士の免許の交付を受けている者

□試験申込書の請求 消防本部・消防署・分署・出張所、市町村役場で交付します。なお、消防本部のホームページから受験案内・試験申込書をダウンロードすることができます。
http://www.119-aizu.jp

□郵送を希望する場合 封筒の表に「採用試験用紙請求」と朱書きし、120円分の切手を貼った、あて先明記の返信用封筒(A4判大)を必ず同封して、会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部総務グループへ送付してください。

□受付期間 平成21年7月15日(水)から平成21年8月14日(金)まで(受付時間は8:30から17:15まで。土曜日、日曜日および祝日を除く)郵便による申込書提出の場合は、平成21年8月14日(金)の消印のあるものまで受け付けます。

□第1次試験 9月20日(日)

場所 / 会津若松市立第一中学校

内容 / 教養試験

☎ 会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部総務グループ

〒965-0131 会津若松市北会津町中荒井字諏訪前 11

☎ 0242(59) 1400

自衛官を募集します

自衛隊 福島地方協力本部

来年度採用予定の自衛官を募集します。

◆一般書候補生

資格 / 18歳以上 27歳未満

受付 / 8月1日～9月11日

第1次試験 / 9月19日

◆2等陸・海・空士(男子)

資格 / 18歳以上 27歳未満

受付 / 8月1日～9月11日

筆記試験 / 9月19日

◆2等陸・海・空士(女子)

資格 / 18歳以上 27歳未満

受付 / 8月1日～9月7日

筆記試験 / 9月27日

◆航空学生

資格 / 高卒(見込み含む) 21歳未満

受付 / 8月1日～9月11日

第1次試験 / 9月23日

◆看護学生

資格 / 高卒(見込み含む) 24歳未満

受付 / 9月7日～10月2日

第1次試験 / 10月24日

◆防衛大学校学生

資格 / 高卒(見込み含む) 21歳未満

受付 / 9月7日～10月2日

第1次試験 / 11月7日・8日

◆防衛医科大学校学生

資格 / 高卒(見込み含む) 21歳未満

受付 / 9月7日～10月2日

第1次試験 / 10月31日・11月1日

☎ 自衛隊 福島地方協力本部

会津若松出張所

☎ 0242(27) 6724

〔訂 正〕

広報みしま6月号2ページの「奥会津電源流域振興協議会」という表記は、正しくは「只見川電源流域振興協議会」です。訂正しておわびいたします。

三島町の人口と世帯
(6月1日現在)

人口	2,107	-1	出生	0
男	985	-2	死亡	2
女	1,122	+1	転入	4
世帯	852	+2	転出	3

※住民基本台帳による数値です。



3

ゆったりとした動きの太極拳で、体も心もほぐす 太極拳みしま

太極拳に取り組んでいる「太極拳みしま」の皆さん。写真左端は指導する木村教子先生（日本太極拳連盟認定指導員・会津美里町）の指導を受けています。太極拳は流れるような動きが特徴で、健康にも良いとされ、特に喜多方市では多くの人に親しまれています。会長の栗城郁子さん（宮下）は「今年で5周年になります。木村先生が本当に分かりやすく基本を教えてくださいださっています。ゆったりとした運動なので、高齢者にも適していると思います」と話しています。会費は月1000円。会員は随時募集中です。

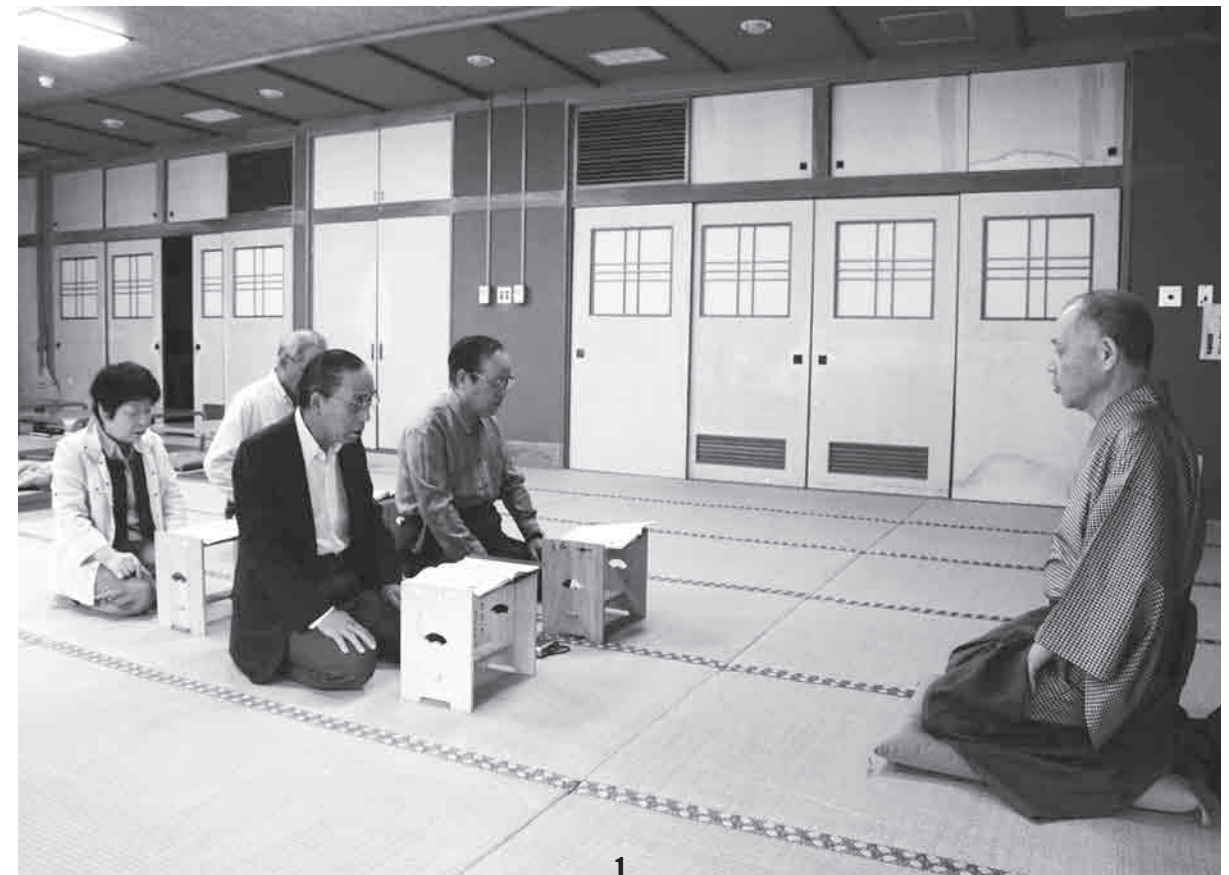
図 教育委員会

☎（48）5599



4

3_太極拳を練習する「太極拳みしま」の皆さん。写真左端は指導する木村教子先生（日本太極拳連盟認定指導員・会津美里町）
4_「太極拳みしま」の皆さん



1

日本の伝統芸能、謡に取り組む 宮下みやび会

謡に取り組んでいる「宮下みやび会」。週一回程度、町民センターで練習に励んでいます。会員は現在17人。月に一度、宝生流能楽師の水上輝和先生（東京）の指導を受けています。謡とは、演劇である能の脚本に相当するものです。室町時代に能を大成した人物として、観阿弥、世阿弥が有名です。日本古来の言葉、和文体で書かれた謡本を用いて練習します。独特の節をつけて謡われ、江戸時代に広く愛好されました。会員の齋藤令子さん（宮下）は「謡をやってみたい方、関心のある方の入会をお待ちしています。会員は随時募集中です」と話しています。

図 教育委員会

☎（48）5599



2

1_謡を練習する「宮下みやび会」の皆さん。写真右は指導する水上輝和先生（宝生流能楽師・東京）
2_三島町文化祭で謡を発表する「宮下みやび会」の皆さん



4 喜多方市の木工房「木もの屋」・小堀さんは6回目の出店。夫婦で家具作りと野菜作りの「半農半木工」に取り組んでいる

5 会津塗を学ぶ若者のグループ「めしもり山工房」は3回目の出店。左から村上さん、沼田さん、山中さん、照井さん。「材料や価格のことなど、工人まつりで学んだことは多いです」

6 栃木県那須町の「熊のあそび場」(陶器)・熊谷さんは6回目の出店。「那須の道の駅にも工人まつりのポスターを張って宣伝してますよ」

7 新潟県津南町の「モリクラフト」・山田さんの木工品。初めての出店

8 喜多方市の「閑月窯」・手代木さんの急須。23年連続の出店

9 アサヅキなど地元の新鮮な味覚も即売された

10 工人のテントが並んだ生活工芸館前のナラ林。緑の中で「作り手」と「使い手」の交流が生まれる



1 実演を交えながら来場者と交流を深める五十嵐富一さん(写真右・大谷)

2 伝統工芸士の久保田節子さん(写真左・間方)。ヒロロ(ミヤマカンスゲ)とモワダ(シナノキの皮)のバッグは、皇室へも届けられた逸品

3 伝統工芸士の五十嵐文吾さん(大登)。マタタビの笊は大人気で、なかなか手に入らない

11 山ブドウ細工を実演する二瓶新次さん(名入)。良い皮にこだわり、丁寧な仕事をする名人

12 人気の山ブドウ細工は、手提げかごやショルダーバッグなどデザインも多彩

13 山ブドウ細工を実演する青木基重さん(写真右・西方)。今では数少ない雨蓑の作り手でもある



第23回ふるさと会津工人まつりは6月13日・14日、生活工芸館前で開催されました。全国各地から集まった150人の工人たちが、手作りの品々を展示即売。三島の工人たちの編み組細工が人気を集め、製作実演には人の輪ができていました。会場は朝早くから大混雑。来場者は2日間で約2万5千人を数えました。三島町生活工芸運動友の会会長の馬場修子さん(松原)は「初めて来てくださったお客さんも多く見られました。高速道路のETC料金値下げの効果もあったようです。これから品質の良いものを作っていきたいと思います」と話していました。売上も昨年より多いという声が、各店舗から聞かれました。

「物も客も質が違う」といわれる三島の工人まつり。材料や手作りの仕事にこだわり続ける工人たちが、その良さを分かってくれる人々を呼び、まつりを通じた交流の輪が年々広がっています。



14,15 町内の皆さんによる飲食模擬店も、過去最高の来場者で大忙し

16 13日の午前中に来場者はピークに達し、受付には行列ができた。臨時駐車場からのシャトルバスも満員の状態が続いた



工人の聖地

ふるさと会津工人まつり
訪れた人だけが
手仕事の逸品に巡り合える――

空がある場所

ある日の美坂高原

この時期は
草がどんどん伸びます
放っておけば
すぐにジャングルです
だから今日の仕事は草刈りです

汗をかきかき
気持ちのよい昼下がり
一息つきながら
ふと空を見上げました

ある詩の一節を思い出しました
「智恵子は東京に空がないという」
高村光太郎の『智恵子抄』です

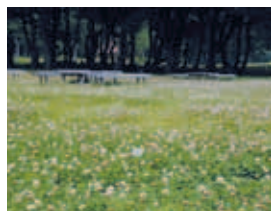
ここには空がある
湖のような青に
もくもくと浮かぶ白い雲

空がきれいに見える場所では
願い事が
かなうような気がするの
私だけでしょうか

写真・文 八木周作



1



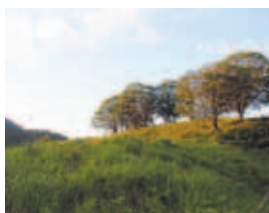
2



3



4



5

- 1_ 青い空の下、初夏の強い日差しに緑が輝く
- 2_ シロツメクサの花園が広がるキャンプ場
- 3_ 園内には三坂制氏の石彫が点在している
- 4_ 生でも食べられるほど甘くておいしいと評判のトウモロコシの畑。このほか、かぼちゃや白菜などが栽培されている
- 5_ 優しい夕焼けの色に染まる高原の丘

美坂高原

〔問い合わせ〕

日中 ☎ 090 (9632) 0931

夜間 ☎ 0241 (52) 2875 (FAX)

■ ブログ更新中

今日の美坂高原

<http://ameblo.jp/misakakogen/>

編集後記

▼町の人口の10倍以上の人々が来場した工人まつり。国道252号は会津坂下ICから渋滞し、交通整理・駐車場スタッフは休み暇もなく対応に追われました▼高速道路の整備が進んだことで、私たちの行動範囲は大きく広がりました。三島に住んでいても、郡山や新潟へ気軽に出掛けることができます。その気になれば通勤することも▼生活圏が拡大する中で、三島に住むことについて考えた今回の特集。この町を選んで移り住んだ方々の声が、町の皆さんに届いてほしいと願います。